

町民がつないだ炬火が国スポ・障スポ選手を後押しすることを願って

わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 愛荘町炬火イベント

6月21日、金剛輪寺にて「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ 愛荘町炬火イベント」を開催しました。

炬火とは、オリンピックでいう聖火にあたるもので、わたSHIGA輝く国スポ・障スポの大会期間中、選手たちの活躍を見守る炎となります。本町では、観光名所である金剛輪寺を舞台に、国スポ・障スポの火となる「炬火」をおこすイベントを開催しました。

本イベントには、イベント参加者や一般来場者、関係者など約300人が集まりました。

親子で協力して
炬火を運びます



開会セレモニーの後、町内小中学生25人による昔ながらの木の摩擦により火を起こす、まい切り式にて「炬火」を採火し、その後、町民公募21人により炬火をトーチで本堂前までリレーをしてつなぎました。新緑と紫陽花で彩られた参道をランナーが走る光景はランナー・見学者双方の機運を高めました。

本堂前に設置した炬火受皿に着火した後は、町内小中学生から応募のあった炬火名称の命名式を行いました。最優秀作品は、秦荘西小学校6年の上林 虹菜さんの作品「火をともし みんなの思い 矢にこめて」に決定しました。最優秀作品・優秀作品に選ばれた名称は、地元愛知高等学校書道部制作の毛筆作品を披露することで発表しました。

町民の皆さんが協力してつないでいただいた炬火は、国スポ・障スポ総合開会式にて入場・点火がされる予定です。



三人が協力して
まい切り式火起こしに挑戦



最終炬火ランナーが炬火受皿に着火



町長から第一走者に炬火を伝達



炬火トーチを大事に
バトシタッチ



新緑と紫陽花の中を走る
炬火ランナー



炬火名称受賞者の皆さんと
毛筆作品を制作した愛知高等学校書道部の皆さん

▼アーチェリー体験を楽しむ子ども（写真左）



アーチェリー体験で国スポをPR！

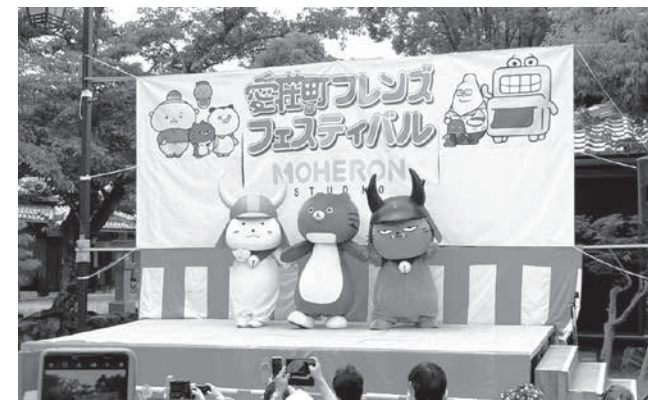
5月31日、愛荘町スポーツ推進委員によるアーチェリー模擬体験会がビバシティ平和堂で開催されました。

この体験会は、10月に開催される、わたSHIGA輝く国スポ・障スポアーチェリー競技の機運醸成を目的に実施されたもので、アーチェリー版ストラックアウトやガチャガチャ企画など、誰もが楽しめる内容が盛り込まれ、当日は約480人が参加しました。

会場では、弓を引いて的をねらう真剣な表情の子どもたちや「大きくなったらアーチェリーをやりたい!」と目を輝かせる姿も見られ、大いに盛り上がりました。

この体験が未来の国スポ選手誕生のきっかけになるかもしれません。

▼ステージに登場したぴーちゃん（写真中央）



笑顔いっぱい！ 愛荘町フレンズフェスティバル

6月8日、愛荘町フレンズフェスティバルが愛知川ふれあい本陣一帯で開催され、多くの来場者でにぎわいました。

会場では、愛荘町観光協会の新マスコットキャラクター「ぴーちゃん」が初お披露目され、大きな注目を集めました。

また、県内各地から個性豊かなキャラクターたちが集まり、写真撮影やふれあいを楽しむ家族連れの姿が多く見られました。

特設ステージではキャラクターたちが順番に登壇し、それぞれの地元の魅力や観光情報をPRしました。

イベントは、多彩なステージイベントとともに、笑顔あふれる一日となりました。

▼水辺で輝くホタル（岩倉川）



幻想的な光に感動 ホタルウォーク&観察会

6月7日、ホタルウォーク&観察会が岩倉川で開催され、JBはたしょう主催のもと、小さなお子さん連れのご家族を含む約20名が参加しました。

はじめにホタルの生態についての説明を受けた後、参加者は岩倉川沿いを往復約4km歩きながら、幻想的に舞うホタルの光を観察しました。

当日は天候にも恵まれ川の上流から下流まで、広い範囲でホタルが飛び交う様子が見られました。

参加した子どもたちは「ホタルがきれい」「また来年も来たい!」と話し、夏の訪れを感じていました。

参加者は自然とふれあいながら、ホタルの生態について楽しく学びました。

▼「ネコリパブリック」の中村さんのお話を聞く児童たち



秦荘東小学校 キャリア教育といのちの学習

6月16日、秦荘東小学校の6年生を対象に、キャリア教育といのちの学習の授業が行われました。

今回の授業は、保護猫活動などで知られる「ネコリパブリック」の中村さんを講師にお迎えして実施されたものです。

中村さんからは、ご自身のこれまでのキャリアや、保護猫活動を始めたきっかけ、そしてその活動を通じて大切にしている思いや学びについてお話しいただきました。

児童たちは「子猫をすぐ保護するのがよいわけではないことが分かった」「動物が病気になったら、治療にこんなにお金がかかると知ってびっくりした」と話し、いのちの重さや責任について深く考えました。